景況レポート

（4月分・情報連絡員80名）

景況DI値変わらず

【概況（全体）】

4月分の県内景況は、前年同月と比較して景況が「好転」したとする向きが12.5%（前回調査13.8%）、「悪化」が37.5%（同38.8%）で、業界全体のDI値は－25.0となり、前月調査と比較し同様の結果となった。

全国及び東北・北海道ブロックとの比較では、製造業が低調であったことから、全体のDI値も全国及び東北・北海道ブロックより低い水準で推移した。

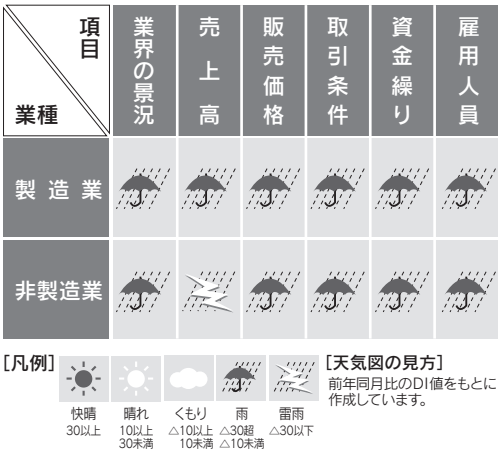
【業界別の状況】

業界別では、一部の食料品製造や卸売業、サービス業で回復傾向が見られたことからDI値が改善した。一方、鉄鋼・金属、小売業、建設業や運輸業は需要の勢いが弱く後退に転じた。なお、全体の景況感は、米国・トランプ大統領が対外通商のドル高是正を改めて表明したことに加えて、朝鮮半島情勢の緊迫化等に伴う地政学リスクが急速に高まったことから、金融／為替市場の流動性も上昇しており、他方では新年度を迎えて、原材料・運送コスト等の負担増や過当競争への懸念も一層増大しているため、中小企業の先行きは予断を許さない状況にある。

＜全国及び東北・北海道ブロックとの景況DI値の比較＞

	秋田県	全　国	東北・北海道
全　体	－25.0	－19.9	－24.3
製造業	－25.0	－15.7	－21.0
非製造業	－25.0	－23.1	－26.2

＜景況天気図＞

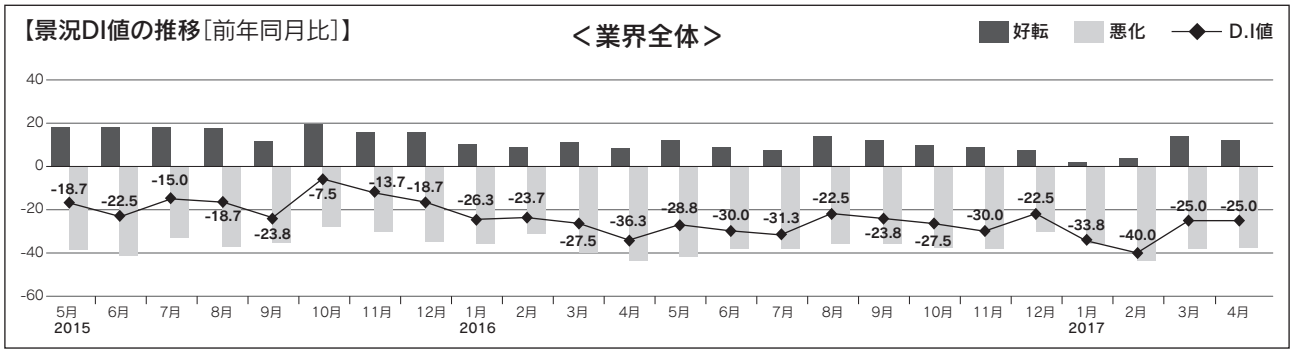


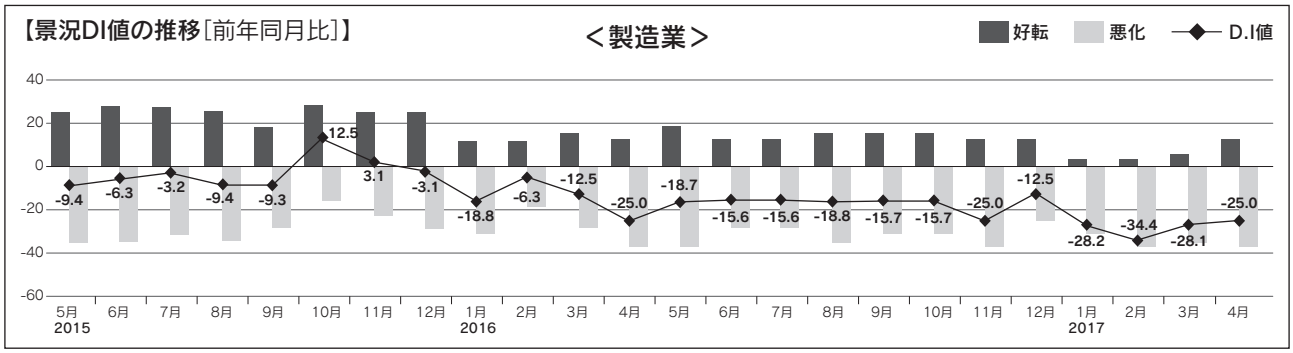
※DI値とは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、増加（好転）したとする企業割合から、減少（悪化）したとする企業割合を差し引いた値です。

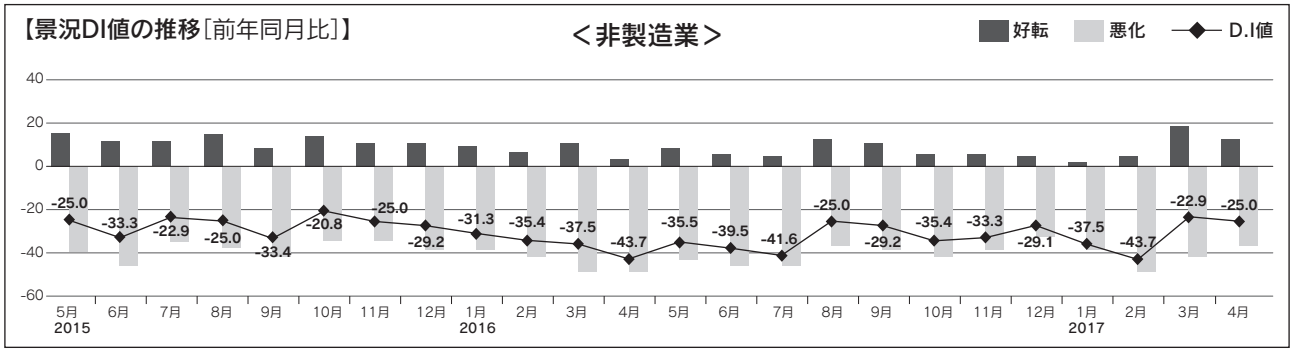
【業界の声】 ～製造業～

（回答数：32名　回答率：100%）

食料品（パン）	売上は前年同様で推移しており大きな変動はない。原料価格が少しずつ上昇気味であり、6月には小麦粉の価格が上がることから経営への悪影響が懸念される。
食料品（清酒）	3月の清酒出荷量は1,867,855ℓで、前年同月比103.0%と前年を上回った。また、タイプ別でも吟醸酒が前年同月比112.9%、純米酒が同102.2%、レギュラー酒101.5%と推移した。
繊維工業（ニット）	夏物衣料のピークではあるが、全体的な受注量が昨年より若干減少しており動きが鈍い。婦人ブランド中心に在庫調整の動きがみられる。
繊維工業（繊維）	気候変動による販売低迷によって受注数が減少している。生産拠点が日本に戻りつつあるが、発注数量に比例していない。今後の景気の不透明感による在庫調整がある。（中央地区）
木材・木製品（一般製材）	大手住宅メーカー及び納入している大手製材工場は活況を呈していると言われてはいるが、その景気感が伝わってはいない。いずれ追い風になることを期待している。（中央地区）
外材	秋田港に2ヶ月ぶりとなる北洋材3,380㎥の入港があった。戸建住宅は堅調と言われてはいるものの集合住宅や非住宅物件は減少傾向にあり、合板等製品相場は軟調気味になってきている。また、在庫量も増加傾向にある。原材料の大部分を占める国産材原木については、県外からの買い方が多くなってきており、その供給と確保はともに順調に推移し、引き続き、外材入港量の積み増しは見込まれない。
印刷	回復を実感するには至っていない。低価格の発注・受注は依然として改善されていない。今後も廃業による組合員の減少が予想される。
窯業・土石製品（生コンクリート）	4月の出荷数量は、前年同月比50%後半と非常に厳しい数字となり、特に全県の出荷数量の35%前後を占める県南地区が54.4%と著しい落ち込みとなった。今年度は昨年度（600,000㎥）をさらに下回ると予想される。
鉄鋼・金属（鉄鋼）	新年度に入り、官公庁関係の工事も未だ動きが鈍く、手持工事は各社バラツキがみられる。本格的な動きは5月下旬以降6月に入るのでは、と思われる。
その他の製造業（曲げわっぱ）	依然として、弁当類の売上が好調で供給が追いつかない状況にある。







【業 界 の 声】 ～非 製 造 業～

（回答数：48名　回答率：100%）

卸　売　業 （青　果）	4月の売上は、前年同月比89.2%で推移した。4月は主野菜の端境期にあたり、生産量が少なく価格が高騰し、売上が落ちている。
小　売　業 （クレジット）	4月の総取扱高は、前年同月比4%減となった。業種を問わず全体的に微減していることから、消費動向が幾分冷え込んでいる傾向にあると推測される。（大館市）
小　売　業 （花　卉）	前年度の落ち込み以上に4月は減少している。卸・仲卸が前年同月比25%の落ち込み、小売業者に関しては30%の落ち込みとなっている。経済状況がかなりの速度で下向きになっているのが花卉業界の現状である。
商　店　街	大型店の売上は西武101.8%、トピコ119.4%、アルス101.0%、テナント86.8%となっている。（秋田市）
	新入学等の関連事業所は動きがあったが、人数減による売上減少の影響を受けた。仕入価格の上昇もあり、収益の減少となっている。（大館市）
サービス業 （自動車整備）	4月の自動車検査台数実績では登録車が7.7%、軽自動車が6.0%それぞれ増加し、全体では前年同月比で6.9%の増加となった。3年前の消費税増税の影響を受けた前年同月と比較し、落ち込みを脱した感が見受けられる。
サービス業 （旅　館）	県外バス会社の当地への旅行企画によって集客が見られ、例年より売上が上がった。
サービス業 （タクシー）	速報値では、前年同月比で運行回数が91.6%、運送収入が91.2%と前年同月を下回った。タクシー利用客の減少が著しく、また、乗務員不足も深刻である。
建　設　業 （電気工事）	大きな物件も無く一般住宅の着工も少ないため、近年では最も暇な4月となった。太陽光発電設備もそろそろ頭打ちになっているのか、5月以降の受注も不透明な状況にある。（秋田市）
運　輸　業 （トラック）	4月の売上は前月比、前年同月比とも5%程減少、収益についても前月比、前年同月比とも減少となった。例年にないくらい輸送貨物の量は少なかったようだ。農作物の収穫期までこの状態が続く可能性がある。（県南地区）
その他の非製造業 （砂利採取）	年度始めのため公共工事等の発注も少なく、骨材の出荷量は例年並の推移となった。（県南地区）